

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	長 崎 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	長崎市立深堀中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	18
生徒数	73	66	81	5	225	

研究の概要

1. 研究主題

<p>たくましく生き抜く生徒を求めて きめ細やかな指導による基礎・基本の定着を通して</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

指導過程「ひきだす」「ひろげる」「まとめる」「つなげる」を中心に全教科，全職員で教師の指導力向上及び生徒へのきめ細やかな指導の充実を図る研究を行っている。

指導体制

	1年	2年生	3年生
社会科	異教科TT (T2 体育科)	異教科TT (T2 家庭科)	同教科TT (TT 少人数指導)
数学科	同教科TT (TT 少人数指導)	同教科TT (TT 少人数指導)	異教科TT (T2 技術科)
理科	異教科TT (T2 美術科)	異教科TT (T2 体育科)	
英語科	同教科TT (TT 少人数指導)	異教科TT (T2 音楽科)	同教科TT (TT 少人数指導)

(2) 年次ごとの計画

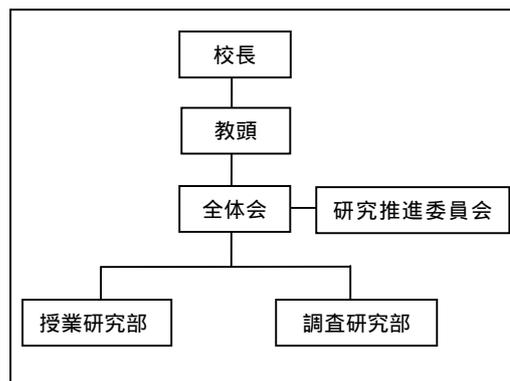
平成14年度	<p>テーマ たくましく生き抜く生徒を求めて ～きめ細やかな指導による基礎・基本の定着～ 研究の見通し(仮説) 基礎・基本の定着を図るために、「きめ細かな指導」と「学ぶ機会を充実」すれば、「分かる喜び」が生まれ、応用・発展的なことながらも進んで取り組むことができるようになり、「たくましく生きぬく力」を身につけることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 きめ細かな指導 ・学習形態の工夫 (TTや少人数) ・指導過程 (ひきだす, ひろげる, まとめる, つなげる) ・指導と評価の一体化(評価と一体化した指導案)</p> <p>学びの機会の充実 ・時間割の工夫 (弾力的, 横断的) ・課外時間の充実 (補充学習会, 読書活動, 環境整備, 支援体制) ・家庭学習の定着 (学習の定着, 取り組み状況の把握)</p>
--------	---

平成 15 年 度	<p>テーマ 「きめ細やかな指導の充実を図る『ひきだす』場の工夫」</p> <p>研究の見通し（仮説） 課題の与え方を工夫し、「ひきだす」場を充実させれば学習に対する興味・関心が高まり、いきいきと学習するであろう。そのことにより、意欲的に学習し、ひいては「たくましく生き抜く力」を身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 きめ細かな指導 指導体制の工夫（TTや少人数指導） 指導過程の工夫（ひきだす，ひろげる，まとめる，つなげる） 指導と評価の一体化（評価と一体化した指導案）</p> <p>学びの機会の充実 課外時間の充実（補充学習会，朝読書，環境整備） 家庭学習の定着（補充教材の作成，取り組み状況の把握） 時間割の工夫（弾力的，横断的）</p> <p><昨年度の中間報告から変更した点></p> <p>テーマ テーマを本研究の重点項目と位置づけて変更している。</p> <p>研究の見通し テーマの位置づけを変更したため，仮説についても重点項目の仮説として位置づけている。</p> <p>研究の内容・方法 「きめ細やかな指導」と「学びの機会の充実」について3か年の見通しをもって研究するために整理した。</p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 「きめ細やかな指導による，分かる喜びのある授業」</p> <p>研究の見通し（仮説） 「ひろげる」の指導過程において，自力解決と集団解決の場を充実させれば，「分かる喜び」が生まれ，いきいきと学習するであろう。そのことにより，自ら考え互いに深め合う学習をし，ひいては「たくましく生き抜く力」を身につけることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 きめ細かな指導 指導体制の工夫（TTや少人数指導） 指導過程の工夫（ひきだす，ひろげる，まとめる，つなげる） 指導と評価の一体化（評価と一体化した指導案）</p> <p>学びの機会の充実 課外時間の充実（補充学習会，朝読書，環境整備） 家庭学習の定着（補充教材の作成，取り組み状況の把握） 時間割の工夫（弾力的，横断的）</p>
--------------------	---

(3) 研究推進体制

研究推進委員会を中心に、「全体計画」「研究の推進」を行っている。「授業研究部」では、指導体制や指導方法の研究を行い、「調査研究部」では、実態調査アンケートを行い、研究の方向性をきめるデータを収集している。また、指導過程（ひきだす、ひろげる、まとめる、つなげる）を研究の中心とし、全教科・全職員で取り組み、授業改善に努めている。



平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

指導過程の充実

教師一人一人が、指導過程を意識することで授業が活性化され、生徒も主体的に授業に取り組んだ。

TTの指導効果

質問がしやすい環境のもと、意欲的に授業に取り組んだ。

少人数指導の効果

自分にあったコース選択ができ、積極的に発表するなど学習意欲が向上した。

プリント棚の効果

自主的にプリント棚を活用し、自ら学ぶ姿勢が身に付いてきた。

家庭学習の定着

家庭で学習する時間が長くなってきた。

2. 今後の課題

TT・少人数指導の効果が一層発揮できる場面や単元の工夫

各教科で、学年、学習内容によってTT・少人数指導が効果的な時期・単元などがあるので、学習形態を工夫する必要がある。

教育課程

ア 教師が教材開発を行うための時間や生徒の提出物を評価するための時間、打ち合わせの時間などの時間を確保する必要がある。

イ 選択教科、放課後の時間等の工夫。

学力把握のための学校としての取組

平成 15 年度 長崎県の児童生徒基礎学力調査	(長崎県・・・1月実施)
教研式標準学力検査 CRT	(6月実施)
生徒・保護者意識調査	(6月本校作成)

研究成果の普及の方策

長崎県中学校教育課程研究協議会にて説明・報告
ホームページに掲載 (<http://www.nagasaki-city.ed.jp/fukahori-j/index.htm>)
中間発表 (H15 10/31)
他県 (福島県, 鹿児島県) からの研究視察に対応

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 1 5 年度からの新規校 1 4 年度からの継続校
- 【学校規模】 3 学級以下 4 ~ 6 学級
 7 ~ 9 学級 1 0 ~ 1 2 学級
 1 3 ~ 1 5 学級 1 6 学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T,T による指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

長崎市立深堀中学校

〒851-0301 長崎市深堀町 1 丁目 604 番地	E-mail j15@nagasaki-city.ed.jp
電話 095 - 871 - 3037	URL http://www.nagasaki-city.ed.jp/fukahori-j/index.htm
FAX 095 - 871 - 0924	学級数 7 生徒数 226 名 教員数 18 名

研究主題

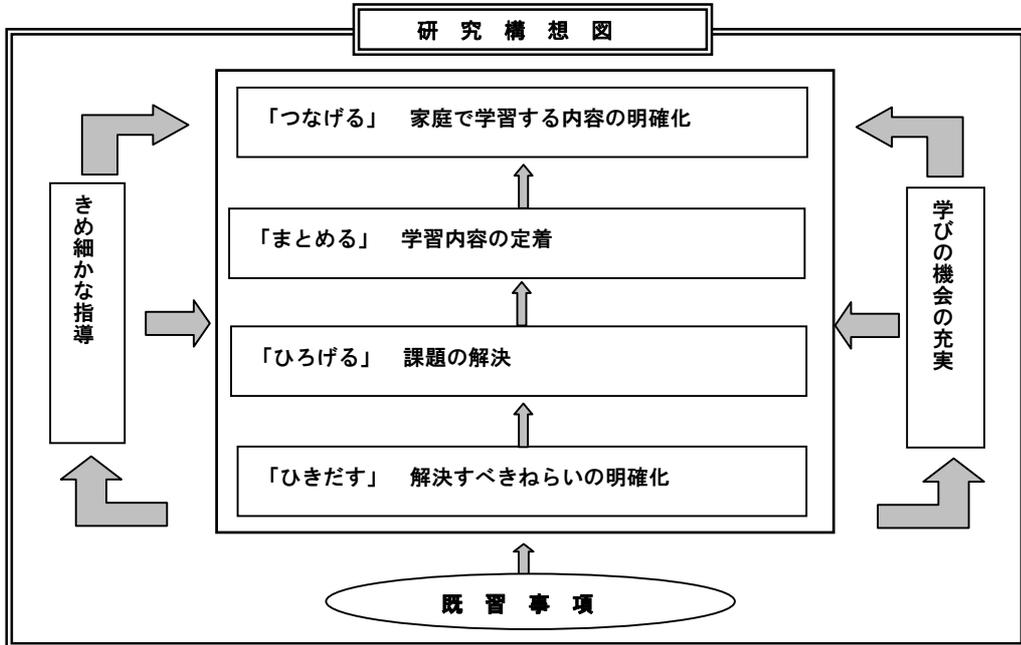
たくましく生き抜く生徒を求めて
 きめ細やかな指導による基礎・基本の定着を通して

1 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

(1) 指導過程

本校の指導過程は、連続した思考の中で学習を深めていくことをめざしている。1時間・1単元の指導過程を、「ひきだす」「ひろげる」「まとめる」「つなげる」の4分節に分けて指導することで、学習内容の習得をより確かなものにならうと考えた。

また、全教科・全職員で指導過程の充実を研究の中心に据え、「きめ細かな指導」と「学びの機会の充実」という両面から支援をしていく取り組みである。



(2) 指導過程の充実「ひきだす」

今年度、指導過程の「ひきだす」を重点項目として研究を深めた。「ひきだす」場面とは、「前時の学習の確認」と「本時の課題の確認」の2つの要素を含んでいる。

「ひきだす」場面の類型化

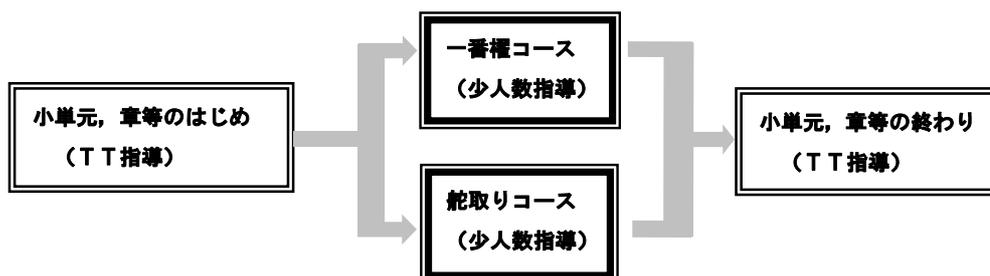
類型	ひきだす			類型の説明
類型Ⅰ	確認	⇒	課題型	『つなげる』場面で次時の活動を確認し、『ひきだす』場面で前時の学習の確認と本時の課題の確認する。(国語科, 数学科, 理科, 英語科, 技術科, 美術科)
類型Ⅱ	確認	⇒	評価型	『つなげる』場面で自己評価カードにより現在の自分の進捗, 次時の課題, 準備品等を確認する。『ひきだす』場面で, 自己評価カードにより自分の進捗, 課題を確認し, 各自の本時の目標を立てる。(家庭科, 体育科, 音楽科)
類型Ⅲ	確認	⇒	連想型	『つなげる』場面で, 本時の課題から次時の学習課題への意識付けをし, 『ひきだす』場面で本時の課題を連想する。(関心を高め, 現在持っている知識の確認, 思考の深まり) (社会科)

(3) 指導体制

	1年	2年生	3年生
社会科	異教科 T T (T2 体育科)	異教科 T T (T2 家庭科)	同教科 T T (TT 少人数指導)
数学科	同教科 T T (TT 少人数指導)	同教科 T T (TT 少人数指導)	異教科 T T (T2 技術科)
理科	異教科 T T (T2 美術科)	異教科 T T (T2 体育科)	
英語科	同教科 T T (TT 少人数指導)	異教科 T T (T2 音楽科)	同教科 T T (TT 少人数指導)

(4) T T と少人数指導 (習熟度別少人数) を組み合わせた指導体制 (構想図)

生徒自身が学習するコースを選択する。



2 発展的な学習や補足的な学習など、個に応じた指導のための教材の開発

(1) 補助教材

基礎学力の定着が十分でない生徒が、主体的に学習するための手立てとしてプリント棚を設置している。教材(プリント)は、要点がおさえられたもので、既に学習した内容を主に作成している。

(2) 補充学習会

本校の実態として、家庭学習が十分ではないため思考が途切れてしまう傾向がある。そこで、夏休みの期間中に学習を支援し、家庭学習の定着を図ることを目的に補充学習会を実施している。

3 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善 (平成 16 年度の重点課題)

4 特色ある取組について

(1) 朝の 10 分間読書

集中力、表現力、読解力、創造力、語彙力を培うために朝の 10 分間読書を実施している。

(2) 深堀小・中学校学力向上推進委員会

深堀小学校と連携を図り、深堀小・中学校学力向上推進委員会を発足させ、PTA を主体に家庭教育のあり方について協議している。取り組みは、「朝食をしっかり食べる」「家庭学習・読書をする」「親子で会話をする」の 3 項目について、ポスターやアンケートを用いて啓発活動を行っている。

5 成果

(1) 指導過程の充実

教師一人一人が、指導過程を意識することで授業が活性化され、生徒も主体的に授業に取り組んだ。

(2) T T の指導効果

質問がしやすい環境のもと、意欲的に授業に取り組んだ。

(3) 少人数指導の効果

自分にあったコース選択ができ、積極的に発表するなど学習意欲があがった。

(4) プリント棚の効果

自主的にプリント棚を活用し、自ら学ぶ姿勢が身に付いてきた。

(5) 家庭学習の定着

家庭で学習する時間が長くなってきた。